

A55c 和歌山大学天文台での教育、連携、地域貢献

富田晃彦、尾久土正己（和歌山大学）

和歌山大学天文台の教育、連携、地域貢献について、2002年秋期年会企画セッション「公開講座・一般公開」C12cで発表を行なった。ここではその後の新しい展開、特に他機関との研究や教育での連携を中心に紹介する。

(1) PAOFITS との連携: 和歌山大学では、教育学部屋上天文台に 60cm 反射をはじめ、機動力のある小望遠鏡が数台ある。これらを使って、2005年に Cepheid の周期光度関係を求める写真データを揃えた。(2) トランジットネットワークとの連携: 60cm 反射では、太陽系外惑星のトランジット観測を 2004 年から始めている。新惑星の発見には至っていないが、60cm という口径と狭い FOV (一辺 4.5 分角) から、暗い対象を得意としている。(3) 星空案内人養成講座との連携: 和歌山大学ではクリエ (学生自主創造科学センター、センター長は尾久土) でも天文教育に関する事業を進めている。その一つが 2007 年からの星空案内人養成講座である。全国の多くの機関と連携し、和歌山大学では大学生教育の一環として案内人を養成するという特徴を持って進めている。2008 年以降は、連携するみさと天文台、かわべ天文公園と共同して星空案内人養成を進める予定である。(4) 測光観測での基礎実験装置: (1)(2) で見られるように、和歌山大学天文台では測光観測を中心に行っている。そのため、CCD カメラの測光特性には特に注意を払っている。クリエには、精度高く単色光を発生させる装置があり、これを使って ST-7E や ST-9E の特性を調べている。結果の一部は 2006 年春季年会 Y08c でも紹介した。また全天モニターも備えている。(5) 電波望遠鏡の製作: 2005 年より、みさと天文台と協力し、21cm 線観測用 8m 電波望遠鏡の製作を進めるなど、電波観測でも基盤の整備を進めている。また小型電波望遠鏡の製作を課題に、地域の高校生への教育も行なっている。詳細は本セッション、佐藤奈穂子他のポスターを参照。(6) 観光学部での新事業: 和歌山大学観光学部では、宇宙コンテンツも観光資源としてとらえ、ロケット、デジタルドームなどの計画を持っている。